

# 農村伝道神学校学報

学校法人 鶴川学院  
農村伝道神学校  
発行人 平良愛香

## 玉山神学院交換交流の報告

(7月1日-8月1日)

報告者：台湾玉山神学院神学(道学)

修士課程2年 林志文(シモン)



シモンさんフングルさん  
ツーショット

7月1日10時30分、期待を胸に台北松山空港へ向かい、羽田空港に到着したのは午後1時過ぎでした。到着ロビーには、校長の平良先生と通訳の桐藤さんが出迎えてくれました。

交流は東京↓川崎↓横浜↓名古屋↓北海道(名寄↓札幌↓浦川↓札幌)↓大阪(野崎↓京都↓龍野)↓東京の行程に沿って、私たちは各地の機構について学びました。これは言葉で表現できない経験で

あり、実際に体験することで初めて深く理解できることです。

日本に来て初めて、社会の基本的な問題が何であるかを知りました。テレビや新聞で見たり報道される繁栄ではなく、この機会を通じて社会問題の所在を理解しました。

最初の週は、農村伝道学校で、学生たちと授業を受けました。玉山神学院での内容と似ている部分(旧約概論、新約概論、宗教学など)、異なる点として、週一度の、農業実習です(玉山神学院では、各学期3日間、院長、教員、職員、学生が全学を挙げてキャンパスを整備します)。そして、校長の平良先生が担当するセクシヤリティーの授業も、農村に特有です。

この間、川崎地域(桜本教

## 安全保障関連法廃止!

## 辺野古新基地建設反対!

会、ふれあい館など)で、ホームレスの状況や韓国系住民が日本で不平等な扱いを受けていることについて学びました。これらのことから、第2次大戦中に強制的に連れて来られたり、自発的に日本にきた韓国人が、今でも日本国民同様の待遇を得ることができない現状を知りました。また、

横浜の寿地区を訪れ、人々が昼間は働き、夜は安い宿泊施設に住んでいる様子を目の当たりにしました。朝から酒を飲み、通りに寝転んでいる人もいました。寿地区センターが週に一度、無料の炊き出しの様子も見学しました。具材は非常にシンプルですが、すべては思いやりの気持ちから、全力を尽くしているのです。

日本は先進国とされているものの、内にはこうした問題があり、誰かが立ち上がることで、問題を顕在化させ、解決に導かなければなりません。

東京の後、名古屋へ向かいました。日本の歴史ある三大都市の一つです。名古屋では、AHI(アジア保健研究所)

や愛知牧場翌日には「下宿館」を訪れ、難民について、認定が非常に難しいことを学び、交流を通して異国での生活は非常に苦痛で無力感を感じることを知り、下宿館の責任者の「お姉さん」(愛称)の愛情と忍耐があればこそ、私たちは社会の中でこうした人々のために黙々と働いている人々を目にすることができ、心から尊敬の念を抱きました。

その後、北海道へ向かいました。到着後、顔馴染みのデイクアン牧師、山本牧師(私が会った日本の牧師の中で一番、子どもに好かれる牧者です)、高柳研二神学生が迎えに来てくれました。山本牧師が運転する「空飛ぶ特急」(ワゴン車)で師の牧会する場所へ向かいましたが、その景色はとても美しく、目新しいものばかりでした。翌日、名寄教会道北クリスチャンセンターに4日間滞在し、その間に礼拝を担当しました。この経験は非常に新鮮でした。翌日には北海教区の親睦礼拝とパーベキューにも参加しました。異なる地域から来た長老たちが信仰のために一堂に会し、130年の歴史を持つ名寄教会の改築(地下室の副堂化)を見学しました。親睦会の後、パーベキューでは、私たちは日が当たる位置で、日

光浴のように感じ、普段と異なる経験でした。その後、札幌市へ向かいました。道中の風景を目にしなが、創世記の中で神が天地万物を創造し、人類を管理者として選び、世の中の万物が多様で豊かなものになったことを思いました。札幌での5日間、私たちは札幌手稲教会に滞在しました。教会の牧師やデイクアン牧師には大変お世話になり、家族のような温かいもてなしに感謝しています。3日間を浦河地域で過ごし、教会の地域での活動について学びました。身心に障がいがある人のための施設を設立し、社会に溶け込むための取り組みを行っています。これは非常に良い取り組みだと思いました。浦河でも案内してくれた山本牧師は、一目会った時から祖父のように感じました。身心に障がいのある人々をどのように自立にみちびくのかを深く理解することができました。浦河に向かう前、二風谷のアイヌ文化博物館を訪れ、現在のアイヌ民族の状況を学びました。台湾の原住民が、政府の圧力によって、文化や言語を失ったことを思い起こし、政府は各民族の文化と言

語を復興させるために大きな支援を行っているのです。台湾の原住民は幸いだったとしかいえません。

大阪・京都では、一部の人々が不平等な扱いや見方をされていることを知りました。野崎、信太山、京都のある地域の人々が行っている仕事は、社会の中で最も低い地位に置かれています。肉製品を供給しているのです。それなのに、低く見られているのです。なぜ彼らは軽視されているのでしょうか？彼らはその地域に住んでいるからといって、社会から見下されなければならぬのでしょうか？解説の先生方は非常に真剣に、そこで起こった事実や歴史的背景について説明してくださいました。この話を聞いて、不平等な扱いを受けたのは、帝国主義による厳しい階級差別のためだったのではないかと考えさせられました。私たちはすでに民主主義の時代へ足を踏み入れているのに、なぜ今でも日本社会に存在しているのでしょうか？日本の神戸牛は世界中で有名ですが、牛を屠殺している人々は、今の日本では軽視されています。宗教の力（キリスト教団）の協力のもとで、変えられるの

でしょうか。龍野教会では、農村地域におけるキリスト教の伝道が非常に困難であることを感じました。教会は高齢者ばかりで、とても親しみを感じる一方で、彼らが去っていった後、教会も閉鎖されてしまうのではないかと考えにたどりつきました。これは、私の民族の教会でも見られます。最終的に教会が残っても、ただ建物だけになってしまふのです。いかにして羊の群れを教会に連れ戻すが、牧者ひとりひとりの伝道戦略です。

最後は、百一年前に東京で起きた暗い歴史についてです。関東大震災の際、朝鮮人、一部台湾人が、一部の日本人に虐殺されました。特定の意図を持った人が噂を広め、人々を不安にさせ、それが一つの力となり、他の民族に対する迫害を引き起こし、社会が地獄へと変わってしまったという事です。この資料は、インターネットや博物館に記録されていて、実際に迫害され、命を奪われたことは記録されています。ひと月の間、農村伝道神学校では、平良愛香さん、瀬戸英治さん、学生のみなさん、名古屋では安達正樹さん、島耕一さん、東のぞみさん、北海道のアイヌ民族情報センタ

ーでは三浦忠雄さん、デイヴアンさん、日向恭司さん、山本光一さん、教団部落解放センターでは上野玲奈さん、東谷誠さん、淀野実さん、車田誠治さん、郭世宗さん、牧師たちのお世話と支援に感謝しています。日本での滞在中、家族のように温かく迎えられたことを感じました。ありがとうございました。

### 修養会

山崎麻里子（一年生）

#### 初日

六月二六日の午前の修養会は瀬戸英治事務長と「野津田・雑木林の会」の久保礼子代表からの発題で、農伝と野津田公園との関わり、そして野津田・雑木林の会と町田市の歩みを学んだ。

かつて、農伝には乳牛がいて「神学校牛乳」を生産していたが、一九六七年に経営難から、宅地二千坪を「自然を残す」という条件付きで民間に売却、さらに七二年には二万坪を東京都に売却して、農伝はかなり小さくなった。牛や豚はいなくなつた。八〇年には、その土地が野津田公園としての整備が決まり、近隣農家も祖先伝来の田畠を手

放した。八六年には、運動公園が突然出来た。さらに、現状の自然を不可逆的に損なう形で園内の湿性植物園等も廃止される予定だそう。



もつとも熾烈な開発経済との闘いを強いられてきた新宿・渋谷をめぐる反開発フィールドワークを行った。午前は、オリンピック・パラリンピックのために強行された新国立競技場の建設によって解体された明治公園と都営霞ヶ丘アパート跡地、また大規模な再開発にともなう森林伐採が予定されている神宮外苑、さらに東京都で初めて公募設置管理制度 (Public-Private) を利用して造園された新・明治公園をたどった。

午後、発題で義憤に燃えたメンバー十四名は、意気揚々と公園の現地視察に出掛けたが、高低差のある山道を涉猟踏破して、農伝に帰り着く頃には最初の憤怒もすっかり消え失せていた。この自然は残すべき貴重な副産なのだ。多摩丘陵の固有種であるタマノカンアオイの群生地があり、準絶滅危惧種のジャコウアゲハも自生する。もしも、読者が植物や昆虫等の自然に興味があるならば、ここはその興味に十分応えてくれる事だろう。

#### 2日目

有住航（教師）

翌日は、「スポーツ」による開発経済と闘いつづけてきた野津田から、おそらく東京で

生活よりも消費を優先する都市のなかで起きている開発経済の諸力は、野津田でいま起きているスポーツをめぐる問題と分かちがたく結びついている。そのことを改めてよく感じさせられた一日だった。



# 2024年度戦争責任シンポジウム報告 「ホーリネスから考える戦争責任」

石井 智恵美 (教師)

今年度の戦争責任シンポジウムは、「ホーリネスから考える戦争責任」と題する講演を、日本ホーリネス教団旗の台教会／元住吉教会の上中栄牧師にお願いたしました。上中栄牧師は1997年に日本ホーリネス教団第34回総会でも

上中氏はまず、ホーリネスという教派がどのように始まり、どのような歴史を経てきたのか、キリスト教史の中に位置づけて語ってくださいました。約2000年のキリスト教史の中で、ホーリネスは19世紀末にアメリカで誕生した比較的新しい教派であること、いわゆるリバイバル(信仰復興)運動の中で生まれ、教義よりも「聖霊による清め」という直接体験を重視すること、アメリカのリバイバル運動の波の中で宣教師たちが日本に多数やってきたこと、などを学びました。日本では中田重治が有名ですが、ホーリ

ネスといっても様々な教派・教団に分かれています。このような特異な教派的特性のゆえに、いわゆる主流派教会からは下に見られるような風潮があった、ということを上中牧師は指摘されました。そして、それがゆえに戦時中の旧6部(ホーリネス)の公権力による弾圧があったときに、教団があまりにもばつさりと旧6部を切り捨てたことは、単なる自己保身にとどまらず、教会の本質的な問題が内包されているように思われる、ということを指摘されました。これは現在にも通じる問題であると思われました。戦時中に牧師資格をはく奪され、周囲から白眼視され、生活の困窮に直面し、そして獄中での弾圧を経験したホーリネスの牧師とその家族たち、信徒たちがどれだけいたことか。戦争という非常時であったとはいえ、自分たちこそが主流であり、これを守らなければならぬという意識が、少数派に対して大きな暴力となつて働くことを歴史の中で



示す出来事であり、二度と繰り返してはならない歴史であることを、改めて示されました。そのために戦時中の教団の負の歴史に向き合うことは、歴史を風化させないために大切であること、また教派間で互いの違いを認めあい、対話を重ねて行くことの大切さを、上中牧師の話からまた教えられた貴重な機会でした。

## 農村伝道研究室より

池迫直人 (教師)

本年度から、農村伝道研究室の活動をはじめました。もちろん様々な職務の合間を縫うようにしかできないことを、ここでお断りしなければなりません。



課題のひとつとしては、本校の歴史を振り返ることにより、その歩みに示され、未解決のままに等閑視されてきた課題を明らかにしていくことです。自己批判的にならざるを得ないことはあきらかです。また、9月初めには農村伝道にゆかりのある、小高・浪江の両伝道所に主として草刈り支援をもって飯島信牧師を訪ねました。杉山元治郎の農村伝道が、いかなるものであったのか、原発事故の影響のもとで、当地の人々が果敢にたたかつてきている一端を垣間見るよい経験となりました。そのほか、教育の柱としての農場・校地について、向き合わざるを得ない状況に直面しています。職員を研修に派遣するなどして、これからの、本校の針路に資するように願っています。



## 同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。異動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ幸いです。

### 逝去

一 鈴木 敏 (神4) 隠退教師八月二八日逝去(九四歳)

また、卒業生ではありませんが、農村伝道神学校と

## 学事報告

かわりのあった方の逝去の連絡がありましたので記載させていただきます。

二 大川リリー（神学科一期生大川義篤さん（故人）のお連れ合い）八月四日逝去

三 荒井献 八月一六日逝去（九四歳）

◇6月11日 戦争責任シンポジウム「ホーリネスから考える戦争責任」講師・上中栄さん（日本ホーリネス教団旗の台教会牧師）

◇6月26～27日 修養会「野津田運動公園問題」瀬戸英治教師と久保礼子さん（のづた里山の家）、「東京オリンピックの傷跡」有住航教師

◇7月1日～8月1日 玉山神学院実習生受け入れ（林志文さんと吳迦勒さん）

◇夏期実習 池田昌功（白石教会）、深沢新明（社会福祉法人ぶどうの里）、高柳研二（玉山の実習生と共に北海道）

◇神学校日礼拝（依頼のあった教会。期日と派遣神学生については次号報告）永山教会、三・一教会、川和教会、小諸教会、高座渋谷教会、横浜港南台教会、上大岡教会、愛川伝道所、林間つきみ野教会、相武台教会、埼玉通り教会、埼玉和光教会、大泉教会。

## 鶴川シオン幼稚園報告

▼鶴川シオン幼稚園の新園長に安倍愛樹氏が就任。安倍氏は日本キリスト教団久我山教会の牧師で、鶴川シオン幼稚園のことをよく理解されている方です。

▼評議員に白井一美氏、監事に清水芳信氏の退任により東山茂樹氏が就任しました。

▼六月一七日（月）2024年度第一回理事・評議員会が生田教会において開催された。議事では本年度の事業計画と予算、理事・評議員・監事の継続を決定した（一部を除く）。課題としては、神学校は献金の減少と学生数の減少への対応。幼稚園は新年度も經常収支で黒字を確保しているが、1号児（幼稚園児）の確保などについて、協議のとき

を持った。

▼私立学校法が改正され、2024年度中の寄付行為の改訂を目指して準備がスタート。主な変更点は理事と評議員の兼任の禁止、評議員会及び監事による理事・理事会への牽引機能の強化、法人役員等の利益誘導の禁止の厳格化など。

（報告 瀬戸英治）

## 校長より

七月の一月間、台湾の玉山神学院から林志文さん（タヤル族、シモンさん）と吳迦勒さん（タロコ族、フングルさん）の二名を実習生としてお迎えしました。関東（東京、神奈川）では農伝スタッフが引率をし、いくつかの授業に出席してもらったほか、川崎

の桜本や横浜の寿町、墨田の関東大震災朝鮮人・中国人（台湾人もいた）虐殺についてのフィールドワーク参加、西早稲田での「アクトイブミュージアム」女たちの戦争と平和資料館）や「教団事務局、CMM（在日韓国人問題研究所）、CMIM（マイノリティ宣教センター）」訪問を行うことができました。名古屋、北海道、関西（大阪、兵庫）でも多くの方にお世話になりました。とても多くの体験をされたようです。ご協力くださった方々、お祈りくださった方々、本当にありがとうございました。

## 玉山神学院被災支援の呼びかけ

前号でもお知らせしましたが、農村伝道神学校と長年の関わりがあり、双方の神学校

で毎年交互に神学生の受け入れ実習を実施（今年台湾から二名が日本で実習を行いました。巻頭言参照）している玉山神学院（台湾・花蓮県）が四月三日の地震で被災しました。人的被害はありませんでしたが、地割れや陥没による建物の痛みがかなり激しいのが実情です。

農村伝道神学校で五月に玉山神学院被災支援のプロジェクトを立ち上げました結果、すでに多くの献金が寄せられました。本当にありがとうございます。この度、プロジェクトを12月までには続けようということになりましたので、引き続き祈りにお覚えいただければと思います。募金は農村伝道神学校の振込口座に「玉山被災支援」と明記してお送りください。

## 2025 年度入学案内

### ◆受験資格

- 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。
- 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

### ◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間（2年間で修了することも可）。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

### ◆学費

- 入学金 60,000 円（入学時のみ）
- 授業料 240,000 円（年額）
- 設備費 30,000 円（入学時のみ）

### ◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- 入学願書（本校指定の書式）
  - 履歴書（本校指定の書式）
  - 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
  - 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
  - 受験料 10,000 円（振り込み）

### ◆入学願書受付

- 第1回 2024年10月22日（火）～11月8日（金）
- 第2回 2025年1月14日（火）～1月31日（金）

### ◆入学試験日時

- 第1回 2024年11月11日（月）午前9時～午後3時
- 第2回 2025年2月4日（火）午前9時～午後3時

### ◆会場 本校教室

### ◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

### 農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール：noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ：https://noden.ac.jp/

### 振替番号

学校法人鶴川学院 00140-7-635524